

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

職員顔写真です。 ※顔を覚えて、声をおかけください。



1年1組
内藤 洋子



1年2組
古屋 麻理



2年1組
藤本美保子



2年2組
今村 里佳



なかよし
河村ひとみ



3年1組
田代 恵美



3年2組
川名 宏毅



たいよう
土橋 洋子



おおぞら
水上 貴文



4年1組
東城由香利



4年2組
入澤 美紀



杜の子
土橋 美和



5年1組
福井 初美



5年2組
伏見 友花



6年1組
長田 昇平



6年2組
大竹美恵子



養護教諭
奥田愛里子



事務主査
依田 佳織



教務職員
市川美江子



図書館司書
井上 真美



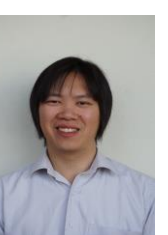
用務員
和泉 幸喜



教務主任
田原 和仁



研究主任
保坂 敏江



ALT ジョナ
サン・リー



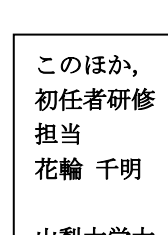
講師
金井 厚子



教頭
大原千栄子



校長
望月 政幸



このほか、
初任者研修
担当
花輪 千明

山梨大学大
学院研修
望月 達也

大人の在り方一つで

こんな話を聞いたことがあります。

安土桃山の世を騒がせた大泥棒の石川五右衛門。浄瑠璃では、南禅寺山門の上で「絶景かな、絶景かな」と叫ぶ姿が印象的です。もちろん彼も、生まれたときからの盗賊ではありません。

ある日、お婆の家に遊びに行った五右衛門の足下にかんざしが……。お婆が探すけれど、見つからないかんざし。下駄に挟んでそっと持ち帰ってしまった五右衛門。その行為を叱ることなく、お金に換えてひとときの贅を楽しんでしまった母親。これがやがて我が子とともに釜ゆでの刑となった「盗賊石川五右衛門」を生むきっかけとなったとのこと。石川五右衛門については諸説多々あります。またその存在すら疑問視されていることは確かです。



しかし、この江戸時代から語られている逸話は、私ども親、大人の在り方を問うているものではないでしょうか。『環境によって子供は育つ』、子供の健やかな成長を願い、学校・家庭・地域ともに、日々学んでいきましょう。

子ども時代には、たっぷりほめて

赤ちゃんの頃は、よく眠ったといっってはほめ、はいはいができたといっってはほめ、立ったり歩けたりするとそれもほめ……。お遊戯会やクリスマス会などにおいても、何かとほめられていた小さい頃。それがだんだん成長するにつれ、子どもをほめる回数が減ってきてはいませんか。もちろん、「そんなことでほめられてもうれしくない」「かえって、変な気がする」という子どもの立場もありますが、親のハードルが高くなる事も事実ですね。

かつてライバル選手を襲撃し、けがをさせた罪でフィギュアスケート界から追放されたトーニャ・ハーディングという選手のことを覚えていますか？彼女は、どんな大会に出場しても、お母さんから一度もほめられたことがなかったらしいのです。「ただもう、ママにほめてもらいたいだけで滑っていたの。」そうインタビューに答えるハーディングの、惨めでさびしそうな表情が今でも思い浮かべられます。



社会に出て、仕事をするようになると、ほめてもらえる機会などほとんどなくなってきます。過程でいくら努力しても、結果が伴わなければ評価されません。大人はみんな、子ども時代にほめてもらった記憶の貯金で、どうにか頑張っているのだという言葉もあります。ですから子ども時代には、たっぷりほめてあげましょう。



さあ、さっそく今日から。